

特別企画シンポジウム1

医療における世界の男女共同参画の到達点と課題
：日本にはここが足りない！



フィンランド

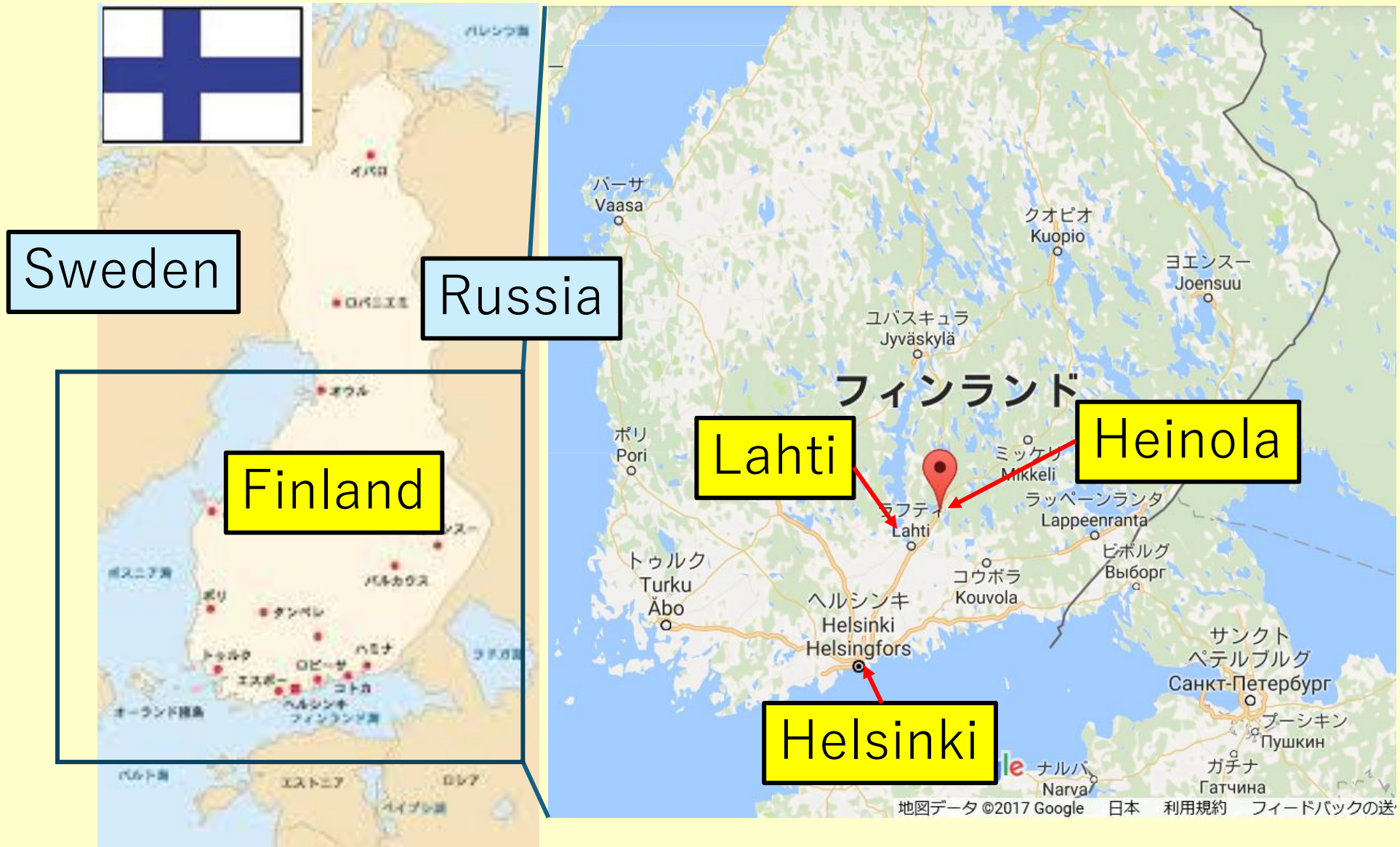
(ジェンダーギャップランキング2位)

高窪 祐弥

(山形大学医学部附属病院 リハビリテーション部)



Helsinki, Heinola and Lahti in Finland



Helsinki, Heinola and Lahti in Finland



首都：ヘルシンキ (Helsinki)

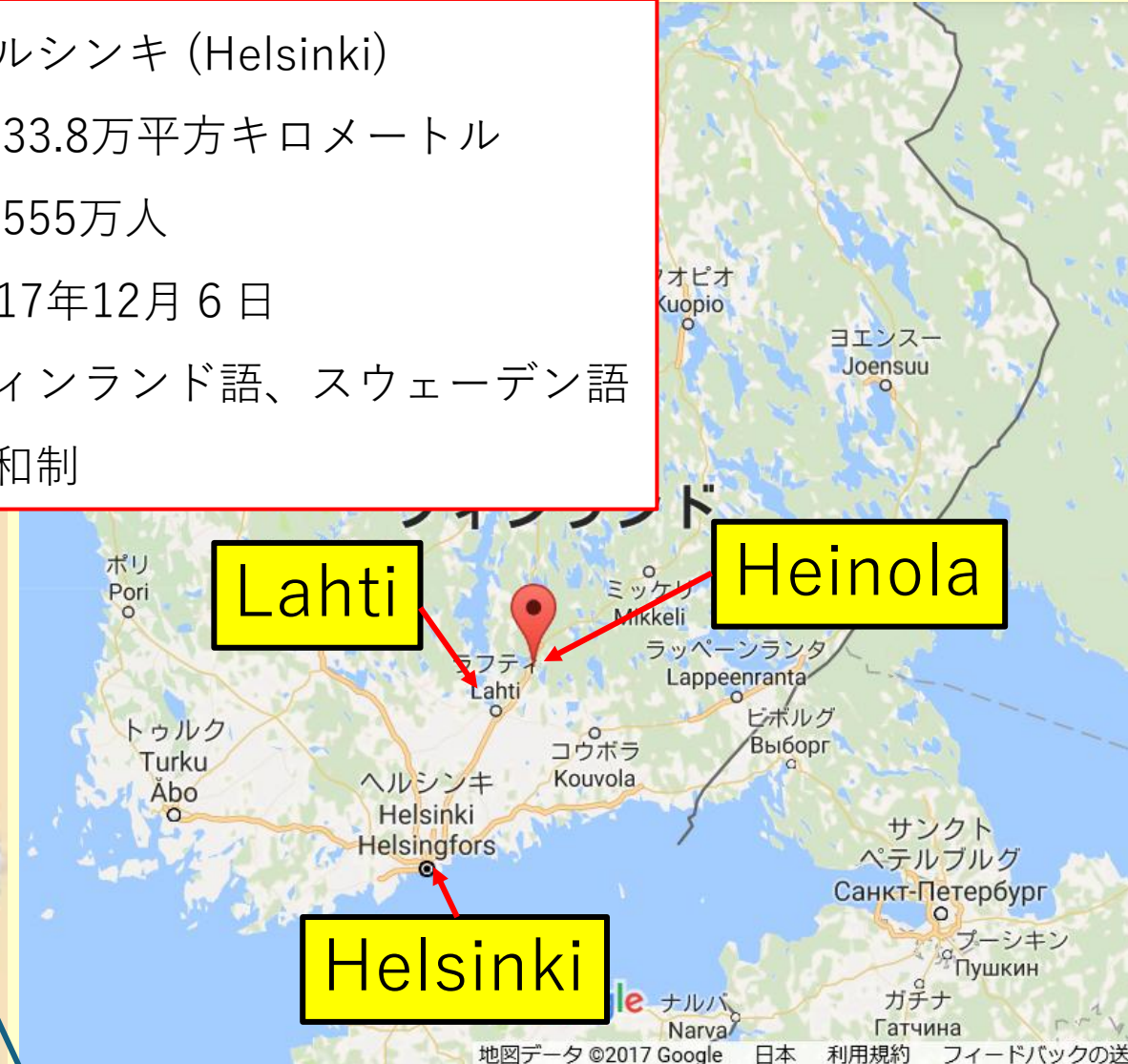
面積：約 33.8万平方キロメートル

人口：約 555万人

独立：1917年12月 6 日

言語：フィンランド語、スウェーデン語

政体：共和制



REUMA in Heinola

Prof. Markku Kauppi, June 2007



REVIEW ARTICLE

Beware of the biologicals—hospitals may die: the Rheumatism Foundation Hospital, Heinola, Finland (1951–2010)

Markku J. Kauppi · Hanna Säilä · Eero A. Belt ·
Markku Hakala

海外留学体験記

海外留学体験記



◀外来診察室で。
右が高橋祐樹教授。
中央がMarkku Kauppi先生。
左が筆者

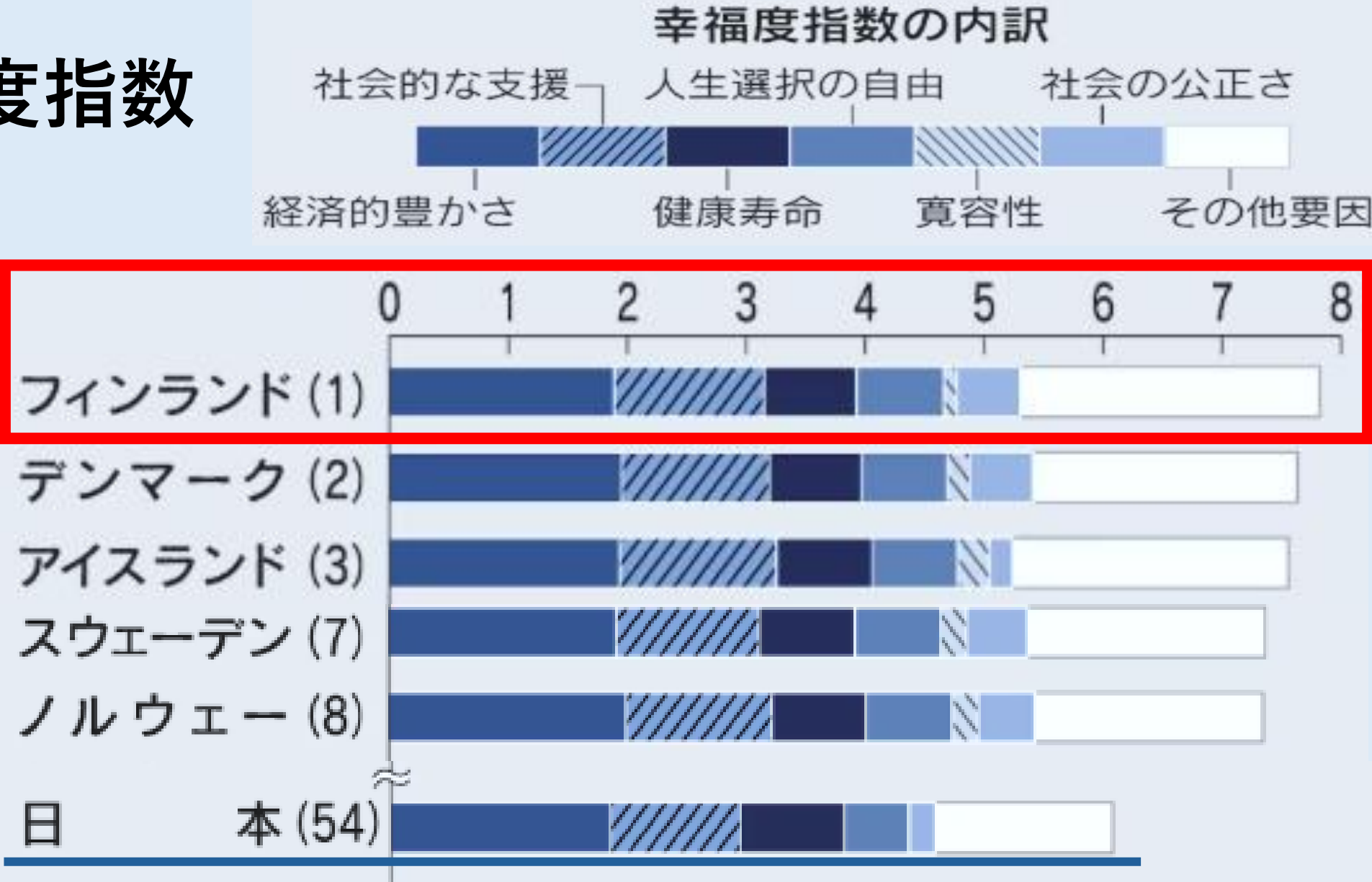
永幡 研

札幌医科大学医学部内科学講座 免疫・リウマチ内科学分野

【GPとの機能分化と「患者ジャーニー」】

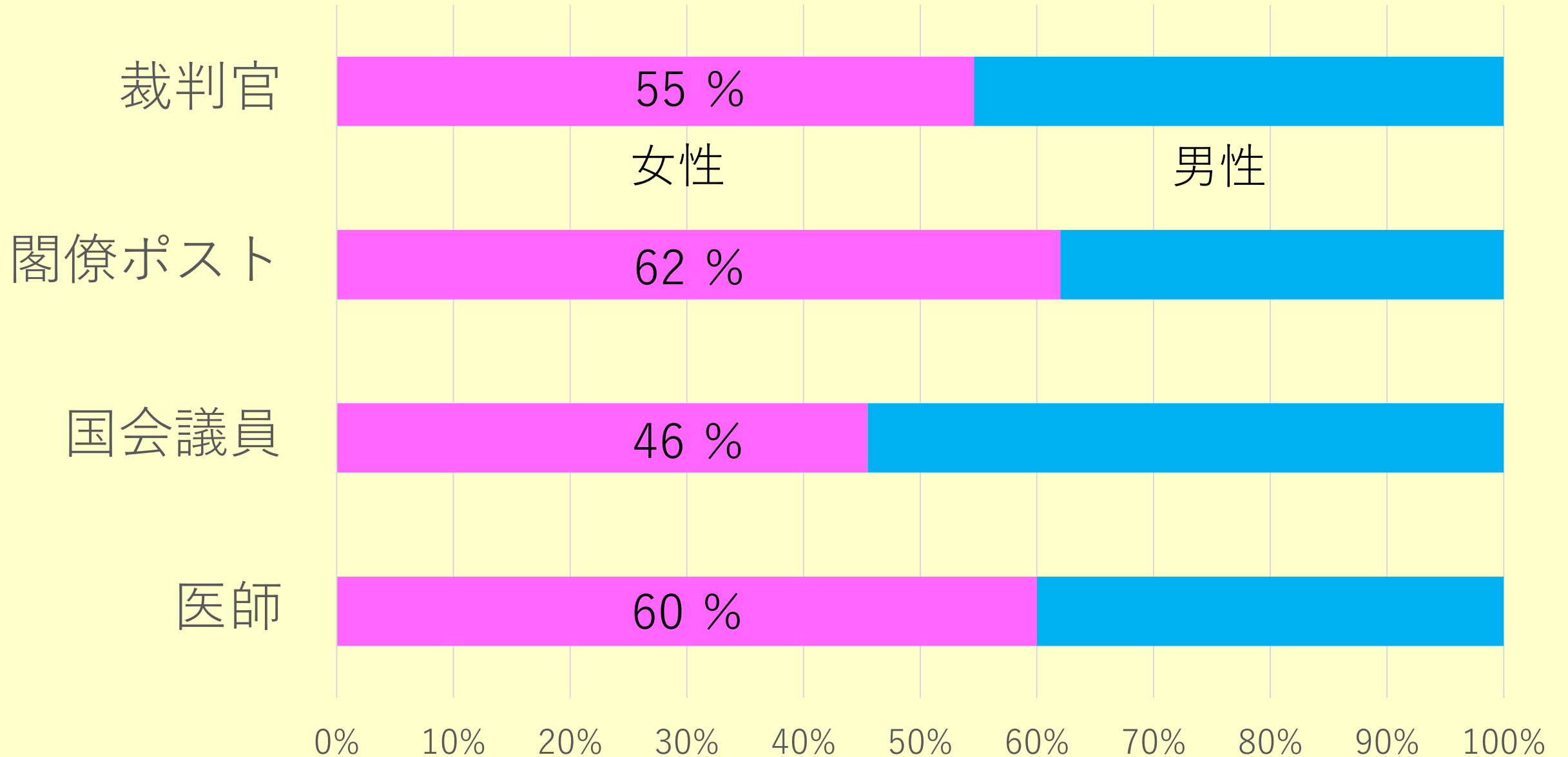
この働き方を可能にしているのが、GPとの徹底した機能分化だ。フィンランドでは、痛風、リウマチ性多発筋痛症、変形性関節症といった疾患は基本的にGPが完結して治療を行い、

幸福度指数



(注) カッコ内は幸福度の順位。出所は国連、2022年

フィンランド ジェンダーギャップ 職業別



フィンランド 医師年齢別

30歳以下

70 %

女性

男性

30-45

65 %

45-60

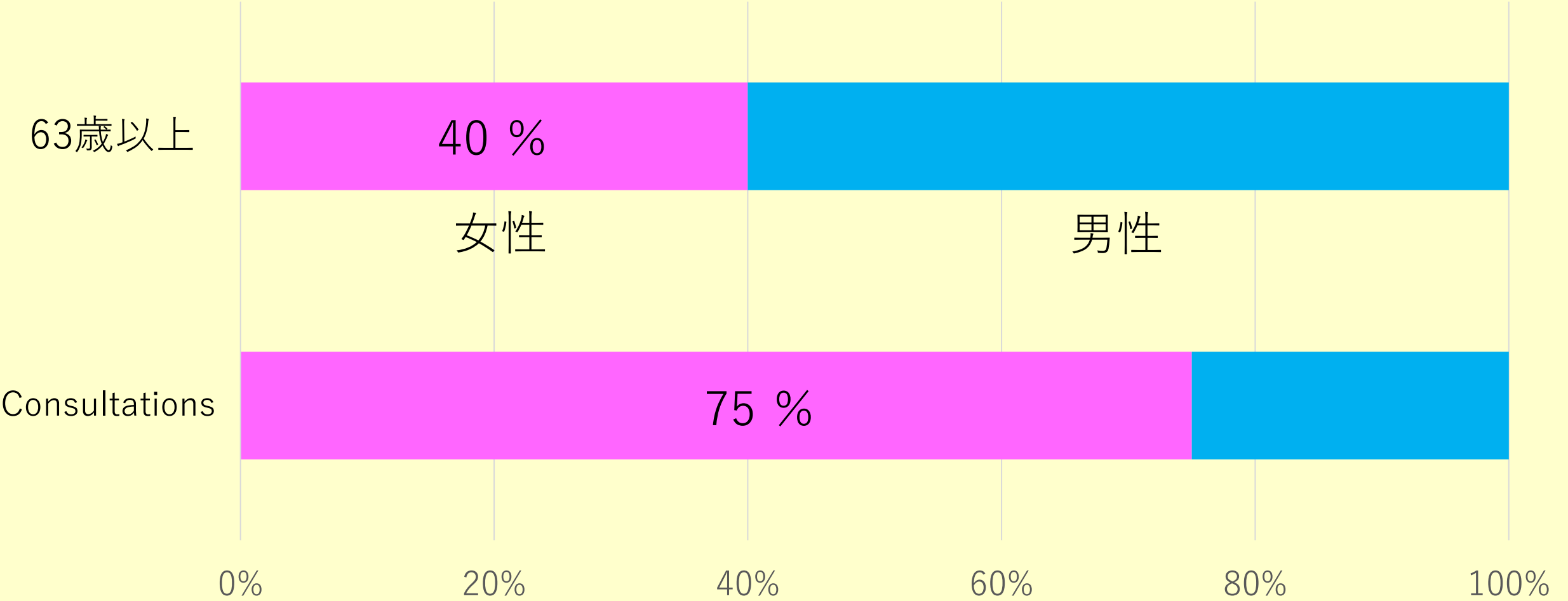
50 %

60歳以上

40 %

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

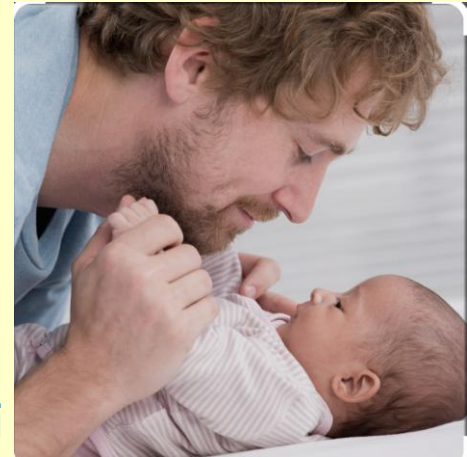
フィンランド リウマチ医師年齢別



妊娠がわかったとき

Just say it to his/her boss

Everybody are happy for his/her child!



産休・育休



Maternal leave : 40 working days

Paternal allowance (家族休暇改革法案) :

320 working days for a childが認められている

両親で2等分しても、1:3としても可

母：子供が2歳で daycareを利用できるので、その後仕事復帰が多い

父：母が仕事にもどるときにpaternal leaveをとることが多い
1-2か月が多い

Salary: 約 80% の Salary は保証される

1年以上休職した場合、80%以下に減額

産休・育休



仕事復帰: 多くは full timeに戻る医師が多い
Part timeも選択できる
法律で決められている

夜勤 (Night shift): Salaryが良いので多くの医師が好む。Dutyは少ない
Night shiftを希望する子持ちの若い医師も多い

子供の病気 (Child sick): 親は休む権利がある。電話するだけでOK

ベビーカースペース



<https://x.com/FinEmbTokyo/status/1195261378652753920>

フィンランドの社会保障

- ・ **教育と医療:** 大学まで授業料が無料。医療費も低負担または無料
- ・ **介護・福祉:** 在宅介護が主流で、介護の家族へ報酬を支払う制度がある
- ・ **税制・負担:** 住民税が16～23%と高く、国民負担率が日本より10%以上高い

国民負担率; 63.2%以上（日本 48.4%）

フィンランドの消費税率（2024年9月時点）

- ・ **標準税率：25.5%**（ほとんどの商品・サービス）
- ・ **軽減税率：14%**（食料品、レストラン、ケータリングサービス）
- ・ **軽減税率：10%**（医薬品、書籍、公共交通機関、宿泊サービス、映画）

フィンランドの離婚率 非常に高い

- ・ 婚姻数の約60%が離婚に至る（日本 30-40%）
- ・ 人口 1,000人あたりの離婚件数は 約 2.0～2.5件（日本 約 1.5件）

離婚は普通: 離婚しない方が少数派と言われる

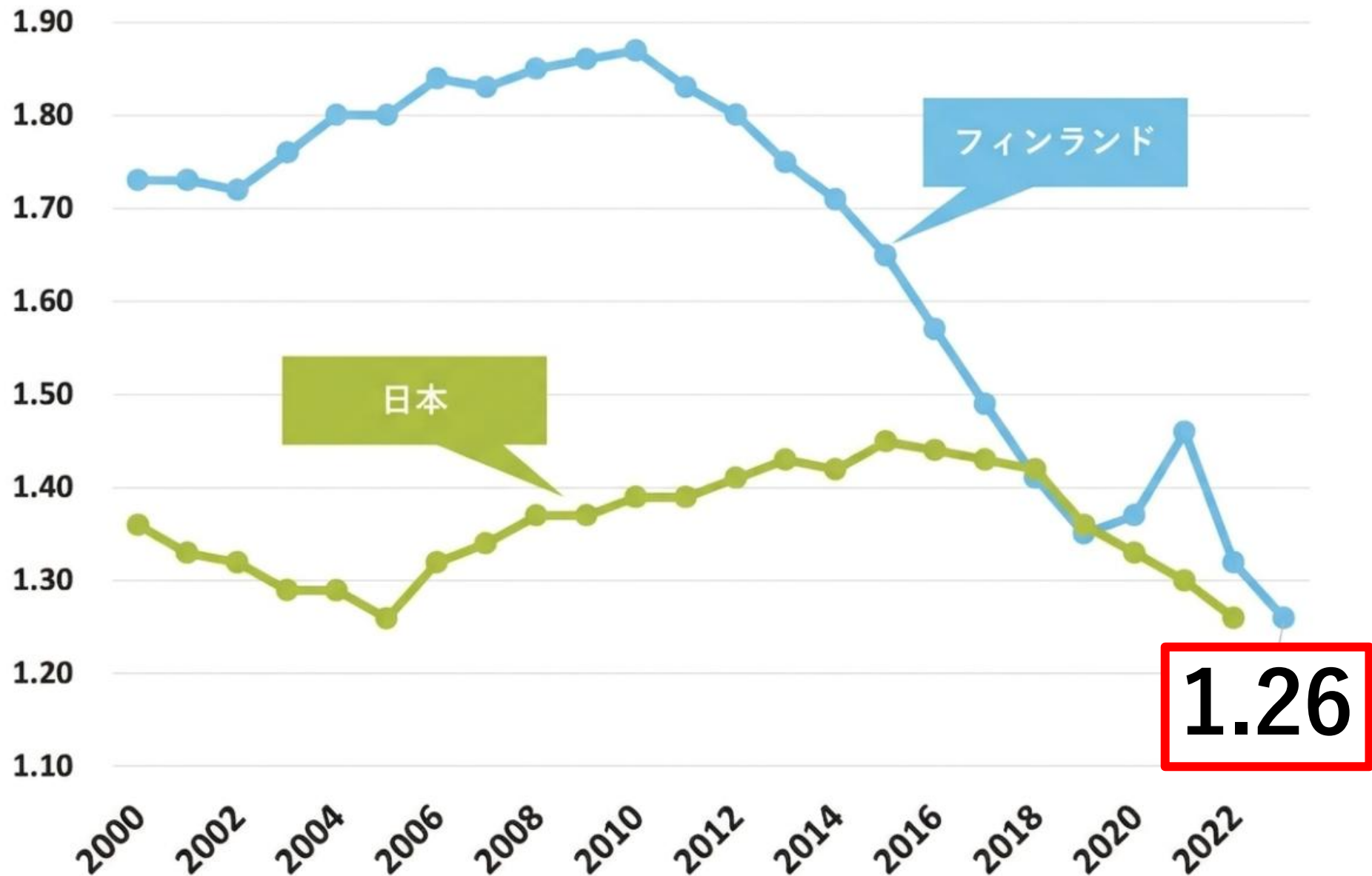
個人を尊重する文化

精神的・経済的に自立している人が多いため離婚に躊躇がない

手続き: 半年間別居すると自動的に離婚が成立する

再婚: 離婚・再婚が珍しくないため、平均再婚年齢は40代後半

フィンランド vs 日本 合計特殊出生率推移





Kauppi教授から 日本へのメッセージ

It is very important that also doctors will have children. They have good genes and good education. They have a lot to offer for their children. Children of doctors will probably be able to get good education and thus be useful for the society in the long run.

The parent leave and the daycare is organized well in Finland and in the Nordic countries. Thus Japanese society should consult the organization of the Nordic countries and develop your society to encourage also doctors to get children.



Kauppi教授から 日本へのメッセージ

It is very important that also doctors will have children. They have good genes and good education. They have a lot to offer for their children. Children of doctors will probably be able to get good education and thus be useful for the society in the long run.

The p and
in the t the
organ 持続可能な社会全体にとっても大切なことになるだろう to
encourage also doctors to get children.

医師の子供が良い教育を受けることは

持続可能な社会全体にとっても大切なことになるだろう

Kiitos Paljon!



Markku Kauppi

Professor of Helsinki University



Laura Kuusalo

The Finnish Society for Rheumatology

